

令和7年3月8峰町議会臨時会会議録

令和7年3月17日（月曜日）

議 事 日 程 第 2 号

令和7年3月17日（月曜日）午前10時開議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 一般質問

第 3 陳情第 6号 政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充しすべてのケア労働者の賃上げや人員増のため国に意見書提出を求める陳情

第 4 陳情第 7号 健康保険証廃止の中止について国に意見書提出を求める陳情

第 5 陳情第 8号 「小・中学校給食費の無償化」を国の制度として実施を求める意見書提出の陳情

第 6 陳情第10号 「介護保険制度の抜本改善・介護従事者の処遇改善を求める」国への意見書提出を求める陳情書

第 7 陳情第 1号 「最低賃金法の改正と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書

第 8 陳情第 2号 デジタル・ベーシックインカム導入に関する意見書の提出についての陳情書

第 9 陳情第 3号 「選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書」採択に関する陳情書

出席議員（12人）

1 番 笠 原 吉 範	2 番 伊 藤 一 八	3 番 奈 良 聡 子
4 番 芦 崎 達 美	5 番 水 木 壽 保	6 番 菊 地 薫
7 番 腰 山 良 悦	8 番 見 上 政 子	9 番 須 藤 正 人
10 番 門 脇 直 樹	11 番 山 本 優 人	12 番 皆 川 鉄 也

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

町 長 堀 内 満 也 副 町 長 田 村 正

教 育 長	鈴 木 洋 一	総 務 課 長	和 平 勇 人
企画政策課長	高 杉 泰 治	建 設 課 長	浅 田 善 孝
防災町民課長	工 藤 善 美	農林水産課長	堀 内 和 人
商工観光課長	成 田 拓 也	税務会計課長	今 井 利 宏
福祉保健課長	菊 地 俊 平	教 育 次 長	山 本 節 雄
学校教育課長	山 本 望	生涯学習課長	石 上 義 久
農業委員会事務局長	内 山 直 光		

議会事務局職員出席者

議会事務局長 佐々木 高 議会事務局庶務係長 須 藤 佳奈子

午前 10 時 00 分 開 議

○議長（皆川鉄也君） おはようございます。

傍聴者の皆さんには、朝早くからご苦勞様でございます。とりわけ三種町の議会事務局職員の皆さん、今日、八峰町までわざわざ傍聴に来ていただいております。少し緊張しておりますが、よろしくひとつお願いをいたしたいと思ひます。

ただいまの出席議員数は12名であります。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第124条の規定により、3番奈良聡子さん、4番芦崎達美君、5番水木壽保君の3名を指名します。

日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許します。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） おはようございます。傍聴者の皆様におかれましては、お足下の悪い中、傍聴に来てくださり、誠にありがとうございます。

議席番号1番、笠原吉範、通告に従いまして、本日は2点について質問をいたします。

まずは、ふるさと納税による財源の取得についてであります。

令和7年度予算は、一般廃棄物処理施設負担金や旧塙木小学校解体事業費などで町村合併以来2番目の規模となりました。町長は、財政の健全化に伴い、町単独自補助金の見直しや新規事業実施時のスクラップ・アンド・ビルドの徹底による財源の捻出を掲げ

ています。それによって懸念されるのは、財源不足による行政サービスの低下や、少子化、人口減対策の停滞であります。

昨年視察した茨城県境町は、ふるさと納税に特化しており、通年提供できる特産品を町が主体となって開発して寄附額を伸ばし、一般会計予算に頼ることなく様々な事業を展開していました。厳しい財政状況の中で、ふるさと納税額を伸ばすことができれば貴重な財源となります。全国で人気の返礼品調査などを行い、八峰町独自の返礼品の開発が急務であると思いますが、町長の見解を伺います。

次に、ハタハタ館の今後のあり方についてであります。

ハタハタ館の経営改善については、一般質問で令和元年9月議会において私が、令和4年6月議会において山本議員が前町長に対して行っています。当時の町長は「存続に全力を尽くす。」と答弁しましたが、コロナ禍の影響がなくなっても2年連続で赤字を継続するなど、一向に改善に向かう兆しが見えません。

ハタハタ館に対する町の負担額は、直近5年間で指定管理料が1億5,959万2,000円、修繕費が2億287万3,000円、合わせると3億6,246万5,000円にも上ります。令和7年度においては、指定管理料が3,500万円、改修費に7,390万円、合わせると1億890万円の負担額となります。さらに、令和7年度からは秋田銀行と町に対する借入金800万円の返済が始まります。正に危機的な状況と言わざるを得ません。

藤里町では赤字が続く町振興協会が指定管理を受けている、まいたけ生産工場の経営を引き継ぐ事業者を公募するとの報道があり、佐々木町長は、民間のノウハウやアイデアを発揮してもらいたいと話しています。正に今、ハタハタ館に必要なのは、民間のノウハウやアイデアであると思います。

1月20日の議会全員協議会において、ハタハタ館の入湯料の値上げや、レストランの経営時間をコロナ禍前に戻すなどの経営改善方針により、今年度見込まれる赤字が約1,600万円に対し、来年度は540万円の黒字に転ずる見通しを示しました。町長は、「令和7年度に結果を出せなければ、会社の解散も検討する。」と述べましたが、結果を出せなかった場合、その後のハタハタ館のあり方をどのように考えているのかを伺います。

以上2点、よろしくお願いいたします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
堀内町長。

○町長（堀内満也君） おはようございます。笠原議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「ふるさと納税による財源獲得について」であります。

ふるさと納税制度は、平成20年度に設立され、地方公共団体が自らの財源を確保し、様々な施策を実現するために有効な手段であり、人口減少が深刻化する中で、地域資源を最大限活用し、地域経済を再生していく上で重要な役割を果たす制度であります。

本町においては、平成26年度に寄附者に対しての返礼品の送付が始まってから徐々に納税額が増加し、今年度は3月10日現在で8,922万円となっており、過去最高額となることが確実となっております。

町の返礼品については、平成26年当時、22品でありましたが、その後、町内事業者の協力を得ながら徐々に返礼品の数を増やし、現在では267品の返礼品を揃えております。

また、納税方法については、当初は役場窓口による現金払いと郵便振替でありましたが、その後は、電子決済やポータルサイトの数を増やすなど、納税しやすい環境整備にも努めてきたところであります。

こうした中、全国の他の自治体の状況を見ると、本町とふるさと逸品協定を締結している大阪府泉佐野市や、議員ご指摘の茨城県境町などでは、多くの寄附金を集めており、そうした自治体と比べると本町の取り組みは不十分であったと考えております。

また、全国の返礼品を見ると、ブランド牛や米、海産物等が人気であるほか、最近では物価高の影響もあり、ティッシュやトイレットペーパーなどの日用品にも人気が集まっております。

一方、本町においては、返礼品となり得る商品を製造する工場や加工場等が限られているため、返礼品の種類が少ないことが課題であると考えておりますが、こうした中にもあっても、最近ではサーモンや海産物の加工品、黒椎茸など、新たな返礼品も増えてきております。

今後、町では返礼品を増やしていくため、町内の事業者に対し積極的に協力を求めてまいりますとともに、町の資源を掘り起こしながら新たな返礼品の開発についても支援を行うなど、本町の税収が増加するよう取り組みを強化してまいります。

次に、「ハタハタ館の今後のあり方について」についてであります。

ハタハタ館については、創業当初から多額の借入金を抱えるなど厳しい経営状況が続き、平成19年4月のリニューアルオープンから5年間は黒字に転じたものの、平成29

年度以降は、電気料金や人件費の高騰、旅行トレンドの変化や施設の老朽化による利用者の減少等により、3年連続で1,500万円を超える経常赤字となっております。

また、令和2年3月には、経営改善計画を策定し、経営体制の強化や赤字部門の縮小等に取り組んだものの、新型コロナウイルス感染症の大流行や豪雨災害等の影響もあり、業績は悪化の一途をたどり、令和7年1月末時点での累積赤字は1億円を超えるなど、依然厳しい経営状況が続いております。

町では、このような状況を踏まえ、コロナ禍においては、国や県などの補助事業等を有効に活用し、新規宿泊者やリピーターの獲得に努めたほか、指定管理料においても、令和4年度から3,500万円に引き上げるなど、経営の安定化にも取り組んでまいりました。

また、今年度は、温泉棟の大規模改修のほか、ビジネス需要に対応するためのシングルルームの新設や、インバウンド需要に対応するためのシャワーユニットを設置しており、特に、8月から供用を開始したシングルルームは、10月以降の稼働率が65%を超える高水準で推移しており、宿泊部門全体としては、コロナ禍の宿泊支援があった期間を除けば、過去最高の売上げ実績となる見込みであります。

しかしながら、経営改善に向けては、レストラン・宴会を中心とする飲食部門の低迷や電気料金の高騰、組織体制のあり方など、様々な課題が山積しております。

まず、この数年間で最も数字を落としているのが飲食部門であり、その対策として実施した大規模な人員整理が、結果的に営業日や営業時間の短縮、サービスの低下を招き、これに原材料等の高騰も相まって、令和2年度以降、飲食部門の売上げは全盛期の2分の1以下にまで落ち込んでおり、メニューの再考や営業時間など抜本的な見直しが急務となっております。

また、電気料金や原材料等が高騰しているにもかかわらず、単価の見直しや各種料金の改定などを行ってこなかったことも大きな問題と捉えておりおります。

今後、町といたしましては、部門責任者の質的向上や従業員向けの接遇研修等を通じて脆弱な組織体制の改善や強化を図りつつ、「飲食部門の立て直し」、「電気料金の削減」、「適正価格の維持」を三本柱とし、ハタハタ館の再建に取り組んでまいります。

まず、飲食部門の立て直しについては、新規メニューの開発や宴会プランの見直し、営業活動の強化に取り組むことで集客力の向上を図るとともに、既に1月から実施しているレストランの夜営業についても、当面の間、利用者が低調に推移することが予想さ

れるため、人員配置やメニュー数を工夫しながら、夜営業の再開が町内外に周知されるよう継続して取り組んでまいります。

また、電気料金の削減については、令和6年3月に株式会社エナーバンクと締結した電力利用に関する連携協定に基づき、このたび電力の競り下げ方式による「リバースオークション」を実施したところ、当初目標としていた15%を大きく超える約30%の削減が可能となり、令和7年度からこの新たな契約単価に切り替えることで、約500万円の経費削減を図ることができるものと考えております。

さらに、物価高騰分の売上げへの価格転嫁についても、この3月から順次、宿泊料金や入浴料等を中心に価格改定を進めており、今後も社会情勢等に応じた価格に修正し、コストアップ分を販売価格に反映させていくことで、安定的な営業活動が推進されていくものと期待しております。

長年、赤字経営が続くハタハタ館において、金融機関への借入金返済が始まる令和7年度は、例年以上に厳しい経営を強いられる1年になるものと覚悟しております。

町といたしましても、1月20日の議会全員協議会で説明させていただいたとおり、黒字転換を目指し、部門ごとに詳細調査や分析等を行い、より実効性・実現性の高い施策等を取りまとめたところでありますが、これまでの赤字体質からの脱却は容易ではなく、適宜修正等を行いながら、粘り強く取り組んでいく必要があるものと考えております。

しかしながら、近年、第三セクターが運営する施設については、人口減少や物価高騰等の影響により全国的に倒産が相次いでおり、県内においても直近1年で複数の施設が営業を終了しており、本町においても決して看過できない状況にあることから、今後の収支状況によっては新たな指定管理者の公募や一部部門の直営化等も含め、検討を進めていく必要があると考えております。

いずれにいたしましても、ハタハタ館の運営は第三セクターであり、公共性・公益性の観点から黒字化することは難しいものと認識しておりますが、今後も地域のランドマークとして、「町民が集い、町民によって利用される場所」であり続けるとともに、同施設の設置目的である「観光振興と住民の交流、健康・福祉の増進に資する施設」としての役割をしっかりと果たしていけるよう、全庁一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（皆川鉄也君） 1番議員、再質問ありませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） それでは、まず1問目のふるさと納税についての再質問を行いた
いと思いますが、その前にですね、ここに町のホームページから取った資料を見てます
と、まず右肩上がりで順調にふるさと納税が増えているなという感じがします。これに
対しては職員の皆様のこれまでの努力に感謝を申し上げるとともに、本当によく頑張っ
てくれたなという気持ちであります。

さてですね、先ほど来言ってるように、町の財源が非常に厳しい中でふるさと納税を
伸ばすというのは、新たな財源としてやはり非常に大切なことだと思います。いろん
なところのふるさと納税をちょっと見ましたけど、まずその前にですね、これはふるさと
納税だけでなく、議員から何回も言われてることですけど、ホームページです。ワンク
リックで行けないんですよ、ふるさと納税に。町長、後で見てもらいたいんですが、境
町のホームページはワンクリックでふるさと納税に飛びます。ですから、これを見ます
とですね、令和6年度で3,412件となっておりますけども、私はですねポータルサイト
から納税してくれてるお客さんの方が多いんじゃないかなと思います、ホームページよ
り。もしその辺分かりましたら、担当課長からでもいいですのでお願いいたします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。高杉企画政策
課長。

○企画政策課長（高杉泰治君） ただいまの笠原議員のご質問にお答えいたします。

当町につきましては、確かにポータルサイトから直接ふるさと納税にアクセスする方
が大多数を占めているというふうに考えております。また、今ご指摘がありましたホー
ムページ上のことに関しましては、ホームページ上に直接すぐにアクセスできるような
バナー等で対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） ほかに再質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） ふるさと納税だけではなくてですね、やはり移住・定住に関しま
しても、例えば空き家とかですね、そういう移住を考えてる人たちに必要なものもワン
クリックで出てこないんですよ。これは議員から再三指摘受けてるということなんです
けども、多少お金はかかりますけども、町長、もう一度ホームページリニューアルするっ
ていう考えはないですかね。お願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。高杉企画政策課
長。

○企画政策課長（高杉泰治君） ただいまのご質問にお答えいたします。

それこそ委員会の方でも議員の方から質問ございました。そのことにつきましては、まず今の現在の保守管理業者の方と相談しまして、何ていいますか、ホームページの見やすさについて変更の方を検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） 1 番議員、ほかに質問ございませんか。1 番笠原吉範君。

○1 番（笠原吉範君） 何とかそのようにしていただきたいと思います。

それでまたふるさと納税なんですが、まあ当町では、八峰町では枕が一番人気だということなんですが、境町のランキングを見ると米なんですね。で、米の売り方が非常にうまいんですよ。返礼品の一番がですね無洗米なんです。しかも、あきたこまちなんですよ。茨城県産あきたこまち。無洗米がですね1 位、2 位、3 位を独占してるんです。で、あとですね食べくらべセットといって、5 k g の袋をですね、すごくこう米の種類作ってるわけですよ。で、そのある米の中から3 つをセレクトして送るとか、そういったですね非常にこうアイデアに富んだやり方をしています。それとあと、品物だけじゃなくてですね、美容院室の利用券とか飲食店の利用券とかもあるんですよ。で、やはりですね、そういう、もしそれが、納税してくれる人がそれを選べばですね、町に来てくれるわけですよね。それ以外のお金も落ちると思っております。例えば留山の登山とハタハタ館の宿泊をつけたものとかですね、いろいろ考えようと思えば考えれるんですよ。そういったアイデアをもった返礼品を是非考えていただきたいと思います。いかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1 番議員の質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 笠原議員のご質問にお答えいたします。

先ほど私答弁でも申し上げましたけども、やはりこれまでの取り組みというのは町では不十分だったなというふうに私は考えています。したがってましてですね、先ほど議員からもおっしゃられたとおりですね、やはりかなりの納税を集めているような自治体のこういった取り組みをしているのかというところをしっかりと研究していきますとともにですね、やはり返礼品の数も魅力あるものでなければならないというふうに私も考えているところでございます。

いずれですね、これからですね、ふるさと納税というのは貴重な税収になることは間違いないというふうに私も考えているところでございますので、いずれ町内の商工会、

あるいは商工会とか、おらほの館のメンバーとかですね、そういった関係者と一度集まって、その返礼品のあり方とか、あるいは新たな返礼品の開発とか、そういった動きをですね、しっかりと進めていきたいなというふうに思っているところでございます。

○議長（皆川鉄也君） 1 番議員、ほかに質問ございませんか。1 番笠原吉範君。

○1 番（笠原吉範君） こうやって返礼品、売れてる返礼品を見ますと、まあ八峰町は枕ですけど、境町は米ですが、やはり通年提供できるものが売上げを伸ばしてるんですね。例えば、きりたんぽも売れてますけども、これやっぱり鍋物ですので寒い時期にしか出せないということもあります。やはり通年で出せる、しかも量の出せるものを開発する必要があると思うんですよ。例えば、境町でいえば米が30億円、干し芋が8 億円ぐらい売ってるんですけど、最初ですね町外からサツマイモ買ってきて、加工場を建てて、それで始まったものなんです。で、それが徐々に売れていって、今度、町の方で農家にイモ作ってくださいと、全量買い上げますよということで今8 億円まで来てるわけです。ですから、そういった通年でできるもの、提供できるものが必要だなと。それでまた、そういう農産物である農家なり、加工品であればそのやる気のある人にやっぱり町が手を貸してあげることが非常に大事なことだなと思っております。通年で提供できるヒット商品を何とか考えていただきたいなと思います。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1 番議員の再質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 通年で出すというのはやはり非常に大事なことだなというふうに私も思ってます。とりわけですね、先ほど境町はお米ということでしたけれども、当然ながら八峰町でもお米は通年出せるのかなというふうに考えています。で、農業者だったり、集荷業者さんとかそのあたりですね、いろいろと相談させていただきながら、ある程度やはり通年出す量ですね町の方で先に確保しておく必要がありますので、そういったところも含めて営業をしっかりと頑張っていきたいなというふうに思っております。

そしてまた干し芋の話も出ましたので、ちょっとこれについて言わせていただきますとですね、前回の全協でも私お話ししたけども、実は、おらほの館にですね干し芋がですね実は出ているところでございます。で、私も食べましたけども非常においしく仕上がっているところでございますので、ただですね議員おっしゃったとおり、なかなかそのイモの品種っていうところも限られているところがあってですね、なかなか量が出せないというようなところも事業者さんからは聞いているところでございます。いずれ

先ほど申し上げたような商工会とか各種団体等とですね、しっかりと協議をしながら、そういった新たな開発、あるいはその継続的に通年を通して出せるような返礼品というところもしっかりと検討していきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（皆川鉄也君） 1 番議員、再質問ございませんか。

○1 番（笠原吉範君） 1 問目は終わります。

○議長（皆川鉄也君） では引き続き、2 問目の方の再質問ありますでしょうか。1 番笠原吉範君。

○1 番（笠原吉範君） まずハタハタ館に関して質問をする前にですね、ちょっとここに東洋経済オンラインというネットで見れるやつなんですが、「自治体が「三セク」で失敗を繰り返す3つの理由」っていうのがあるんですよ。まあ後で全文読んでいただきたいんですが、これは前町長の時にも私読み上げたものです。なかなかこれが響かなかったようであります。堀内町長に響くのかどうか、ちょっとかいつまんで、私の意見とまるっきり同じですので、これかいつまんで読み上げますので、それに関する感想をいただければと思います。

「役員には事業をしたことのない役所絡みの人が就き、事業設計はコンサルに外注。資金調達については、補助金だけでなく、自治体から直接借り入れたり、もしくは損失が出た場合の補償を、自治体にしてもらおう条件で金融機関から融資を受けたりしてしまうわけです。そもそもこうした三セクは、本来は経営責任を負うべきなのに、経営責任を持たない、あるいは事業をしたことのない人が行うことが大半です。そのため、他人に任せるにしても、誰に任せたらいいのかということさえ分からない。損失が出ても、結局は自治体がどうにかしてくれると思っている「環境」のため、まともな経営ができないわけです。そもそも事業も資金も、全てにおいて責任が不明瞭なわけです。最悪なのは、もし失敗しても、再建計画もまた別のコンサルに依頼することです。そして「潰してはいけない。潰すと大変だ。」というような話で、自治体がだらだらと救済策を講じ続けることです。こうした場合、三セクの失敗は潰して終わりにならず、むしろ潰れかかってからの支援の方が高くつくことさえあります。」ということです。これについて感想を求めます。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1 番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 笠原議員のご質問にお答えいたします。

今、東洋経済オンラインの記事を読み上げていただきましたけども、正におっしゃるとおりだというふうに思っております。したがってですね、これまでの体質というのは今回改めてですね改善していくというようなお話の中で、私たちもですね、かなりしっかりと説明をさせていただいているというふうに認識しているところでございますし、そしてまた先ほどの答弁で申し上げましたとおり、令和7年は金融機関への返済等も始まりますので、危機感を持ってですね取り組んでいくというようなところをお誓い申し上げたところでございます。

いずれにしてもですね、その東洋経済オンラインの記事はそのとおりだというふうに思っておりますので、そうならないようにですね我々もしっかりと、このハタハタ館の事業を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（皆川鉄也君） 1 番議員、再質問ございませんか。1 番笠原吉範君。

○1 番（笠原吉範君） まず商売をしたことがない人がやってるんだということですね、町長も先ほど言いましたが、堀内町長が町長になる前ですけど、その策としてですね従業員を減らしてサービスの低下を招いて、券売機を置いて社員食堂のようにですね、自分で料理を取りに入って自分でさげるというような、それとレストランを時短、時間を短縮するといったですね、正に何を考えてるんだというようなことをやったわけですよ。それによってまた赤字が膨らんできた。これはね、やはり民間のノウハウやアイデアがなければ立ち直らないと私は思います。

まあ先ほど言いました藤里の例ですけども、まず経営者を公募するということなんです、令和7年度、結果が出せなかった場合は公募に踏み切る考えはないですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1 番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 先ほどの答弁で繰り返しになるところでございますけども、なかなか結果が出なかった時でございますけれども、新たな指定管理者の公募、あるいは一部門の直営化、そういったところも含めてですね検討を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（皆川鉄也君） 1 番議員、ほかに再質問ございませんか。1 番笠原吉範君。

○1 番（笠原吉範君） 町の財政もですね、だらだらとハタハタ館を支援していく余裕はないはずだと私は思っております。やはりですね民間の力がないと無理だというふうに

思っております。もしですね、令和7年度結果が出さなかった場合はどういうふうに対応するつもりなんでしょうかね。先ほど私の一般質問でも、どう対応するのかと、今後のあり方、まあ頑張る、頑張るって言うだけで、ただ頑張るだけで結果を出せなかったらどうするのかということなんですが、その結果が出せなかった場合に民間に経営を公募するのかなど、そこをですね伺いたいわけです。で、これはハタハタ館のあり方次第では、御所の台の再構築にも大きな影響を及ぼすと考えています。ですから何とか立ち直らせるには民のアイデアしかないんですよ。これは私も山本副議長も再三一般質問だったり全協で話してきたんですが、一向に動こうとしない。そして赤字が続いていつてる。この今まで直近5年間で、今、ハタハタ館につき込んだお金があればですね、どれだけの住民サービスができますか。そろそろですね、ここら辺で本気になって変えるか、やめるかしていただきたいと私は思います。もう一度答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの1番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 当然ながらですね、令和7年度は黒字化を目指して各種取り組みを進めていくところでございますけれども、先ほども申し上げましたとおりですね、経営厳しいというところも皆さん認識しているところでございますし、そしてまた結果があまり芳しくなかったというような場合にはですね、先ほども申し上げたとおり新たな公募、そしてまた飲食部門においては、これは由利本荘市の件でありますけれども、温泉部門は直営化するような報道等もありますので、そういった各自治体の状況等も見ながらですね、そういった取り組みを検討せざるを得ないというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 1番議員、再質問ございませんか。1番笠原吉範君。

○1番（笠原吉範君） これで最後にしたいと思いますが、最後に私の思いを。

私はですね、ハタハタ館やってもいいっていう会社なりが手を挙げたらですね、1年間の指定管理料つけても無償譲渡した方がいいと思います。これ以上やっていると、まず指定管理料も3,500万円は毎年出ていくわけですから、それにまた老朽化してきてますし、修繕費もそこそここれからもかかっていくものと思うんですよ。ですから、そのくらいのことをやってですね公募していただきたいということを申し上げまして、質問を終わります。答弁要りません。

○議長（皆川鉄也君） これで1番議員の一般質問を終わります。

